

— 目次 —

- ◇こども教育サポート(P1~2)
- ◇村の子供にインタビュー(P3)
- ◇横浜国際フェスティバル(P4)
- ◇08年夏季WCの報告(P5)
- ◇お知らせ(P6)



— LOOBについて —

ロオブ:2001年に発足し、現在は北海道、仙台、東京、名古屋、大阪、福岡の有志が国際交流・協力系のプログラムを実施しています。フィリピンではビサヤ圏パナイ島のイロイロ市を拠点に、非政府組織(NGO)法人として多くの青年ボランティアが活動中。

LOOBはフィリピンと日本の草の根的な相互理解を促進し、物的・人的支援の提供でコミュニティを支援しています。LOOB会員は随時募集しています！



LOOB JAPAN
北海道北見市三楽町126-19
Tel/Fax: 0157-24-9339



LOOBフィリピン事務局
Lot23 Blk15 NHA2
Mandurriao, Iloilo city
Philippines 5000
Tel/Fax: 63-33-321-2040
Eメール: info@loobinc.com
団体HP: www.loobinc.com

【LOOBからご挨拶】

皆さん、こんにちは！08年は他団体のコラボ、助成金獲得、日本とフィリピンの支援活動の拡大など、LOOBが大きく成長できた年でした。【速報！】そして青少年育成事業であるワークキャンプへのこだわりが評価され、08年12月に「財団法人かめのり賞」を受賞することが決定しました！1月9日には東京の表彰式にLOOB理事が出席する予定です。このように社会的責任も徐々に大きくなってきていますので、気を引き締めてがんばっていきたくと思っています。

(LOOB代表 小林幸恵)

◆こども教育サポート◆

今年は74名の子ども達をサポート中です。スポンサーには子供からのお手紙をお送りしていますが、こうした活動も日比のボランティアさんの協力で成り立っています。

今回はLOOB JAPANの社会人ボランティア、Chikaさん(26歳)が参加してくれ、そのときの様子を手記にしてくれました。

第1部 <タラバハンの再来訪>

11月9日、私たちはLOOBハウスを出発した。いつものようにバンは陽気な仲間達の賑やかなジョークが飛び交う。バンからボート、ボートからまたバンへと乗り換え、ギマラス 島タラバンへ向かう。

私が初めてLOOBのワークキャンプに参加したのは、2002年の夏だった。もう6年も昔の経験になるが、あの時過ごした時間と感じた気持ちはいまでも胸の中でリアルに再生できる。

遠く日本で想えば、タラバハンの日差しを思い出しては切なくて、胸が苦しくなってしまうほど、愛しい思い出。今より多感なあの時期に、あんなに温かい人たちに触れてしまったおかげで、私は今も暇をみつけてはまたタラバハンを訪れてしまう。再訪するたびに、ホストファミリーが涙を流して私を抱きしめる。こんなことをされては、また帰らずにはられない。

感傷に浸っているうちに、バンはいよいよ緑と土ばかりの道へと入っていく。元気な子どもたちの声が聞こえたと思ったら、そこはすでにタラバンだった。

第2部 <アートクラス>

今回の訪問は、村人との再会だけではない。アートクラスを実施し、教育スポンサーの皆様へ手作りのクリスマスカードをお届けすることが目的なのだ。5～14歳の子どもを対象としたこの野外教室では丸、三角、四角などの図形を使って絵を描く練習をしたり、もっとクリエイティブに、指紋をスタンプにお花の模様を作り上げたりして楽しんだ。

アートクラスを開催したのは大学生スタッフのYUHEIとKAZU、そしてフィリピン人スタッフのBETCHとDYNAだ。年齢も生まれた場所もばらばらなメンバーだが、志は同じ。チームで子ども達に向き合う。

私はこうした活動に参加するのは初めてだったが、他のメンバーは慣れたもの。子どもの関心をうまく引き付けながら、さくさくとプログラムを進めていった。

スポンサーの皆様、お手元に子ども達お手製のカードが届く日を楽しみにして下さいね！子ども達はインクで指や顔や服を汚しながら、大きな笑顔で一生懸命にカードを作成していましたよ。カードを開けばタラバハンのお日様の下ではしゃぐ子ども達の声が聞こえてくることでしょう。

第3部 <チャイルド・スポンサー>

なにを隠そう、実は私自身もスポンサーとして二人の学費を支援させてもらっている。本来、足長おじさんは子どもに自分の正体を明かすべきではないのかもしれないけれど、私は幸運なことにこの時期に村を訪れることができた。

私は、アートクラス中も支援している二人の様子を伺っていた。言うまでもなく、二人ともとてもかわいい。が、そのうちの1人に問題があると事前に幸恵さんから聞かされていた。小学校1年生のラネル君が出席日数と授業中の態度に問題があり、2年生に進級できなかったというのだ。正直なところ、この知らせには耳を疑ったし、がっかりした。

けれど、それはフィリピンのこと。なにか一筋縄でいかない理由があるに違いない。私は本人の様子を観察するだけでなく、ラネル君の母親と話をする機会をいただいた。

母親によると、最近まで赤ちゃんを妊娠していたので、大事をとってイロイロで生活していたのだそう。ラネル君とは離れて暮らし、ギマラス島に残った父親に面倒を任せていたが、うまくフォローしきれなかったらしい。「自分がそばにいればこんなことにならなかったのに申し訳ない」と母親は私に詫言っていた。私に話をしながら思わず涙ぐんでしまった母親の腕の中には、生まれて間もない赤ちゃんがいた。

一方、ラネル君のアートクラス中の様子と言えば、子どもらしい無邪気な好奇心で、積極的に発言もお絵描きもして問題なかった・・・途中までは。彼の欠点は集中力が続かないことだった。途中で疲れて飽きてしまうらしい。

彼はまだたったの8歳だから、集中力のなさを本人だけのせいにするのは可哀相だろう。LOOBからも両親に釘を刺してもらったが、私から母親に「これからもラネル君の勉強を応援し続けるから、彼が勉強に集中できるような環境を整えてあげてください」とお願いした。

ここまで書いて、はっとした。私はスポンサーとして彼の将来に期待してはいるが、見返りを求めるような立場ではない。私は、子どもの学ぶチャンスを金銭的に支援しているだけ。程度の差こそあれ、チャンスは誰にでもやってくるもので、大事なそれはそれをチャンスと気づくかどうかだと思う。私の訪問でできたこととしたら、学校に通えるということがラネル君と彼の家族にとって、違った未来をつかむチャンスなのだと気づいてもらうこと。子どもが教育を受けるということは未来を変えるチャンスなのだ。たとえ今は貧しかったとしても。

このニュースレターの読者には、スポンサーを引き受けてくださっている方もいると思います。今回は私の個人的な体験談を紹介させていただきましたが、皆様にもそれぞれの思いがあると思います。私の体験談はほんの一例です。実際には子どもの人数分のストーリーがあるはずです。ご自身が支援されている子どもから手紙や成績表が届いたら、その文字や数字の奥にあるストーリーを想像してみてください。私は、ラネル君と家族がチャンスを活かし、未来のラネル君が活躍してくれることを期待しています。

特別企画:村の子供にインタビューVol2

教育サポートを受ける子供に毎日の生活を聞いてみました



★インタビューアー、Yuhei君より★

僕とドンドン君との出会いは2008年夏。ギマラス島ワークキャンプ中のイベントの一つ、キッズキャンプでした。遊ぶのが大好きという共通点があり、同じチームのメンバーとして共にはしゃぎまくった仲です。

それからというもの、僕は「週末英語アクティビティ」の度に彼に話しかけてます。

名前の由来でもあるドン(首領)のとおり、道ですれ違うときの会釈のような挨拶(微笑んで眉とあごを軽くあげる)はかなりの貫禄があります。もちろん子どもらしさも兼ね備え、無邪気な笑顔で友達と遊んでいたりと、大人に対してはシャイだったりといろいろな表情を持っているドンドン君です。

◆◆ ドンドン君の土曜日 ◆◆

カラフナンのごみ投棄場のすぐ近くに住んでいるドンドン君。学校のない土曜日はどんな風にすごしているのでしょうか？

朝6時。彼の一日がスタートします。

「土曜日の朝は、お米を洗って朝ごはんの準備を手伝うの。ご飯を食べて少し休憩したら、お母さんとスモーキーマウンテンに行き、一緒にごみ拾いをするんだ」

フィリピンでは、子どもでも家事を手伝ったり、両親の家計を支えているんですね。

週末のお昼からはLOOBのアクティビティに参加したり、近所の友達とごみ投棄場の空き地で遊ぶそうです。

「友達と流行っているのは、メンコ、1ペソ硬貨でおはじき、サンダル投げ」

晩ご飯の後は、皿を洗って、豚に餌をやって、本を読んだり宿題をしたり。お手伝いも宿題も終わったら後は、お楽しみのテレビを見て、9時ごろに就寝するそうです。



ドンドン君の将来の夢は「お医者さん」。これは1年生からの夢で、「**医者になったら家族が病気になるでもすぐに助けてあげられるから**」だそう。本当に家族想いのドンドン君です。いつかドクター・ドンドンになれるようがんばって勉強を続けていってほしいものですね！

★インタビューを終えて★

今回は、下校途中の彼を急遽つかまえてのインタビューでした。シャイなドンドン君ですが、モジモジながらも現地語のイロongo語メインでしっかり答えてくれました。インタビューでは今までのイメージとはまた違う、彼の新しい一面を見ることができ、次に彼に会う日が待ち遠しくなりました。

LOOB JAPAN 横浜国際フェスティバル出展 ジュースパック製品「バッグショー」開催

11月25日～26日に横浜国際フェスティバルに参加しました！6月から学生・社会人ボランティアが時間を作りながら、コツコツと、確実に準備を進め、気合の入った出展ブースができました。

フェアトレードのココナツ製品やスモーキーマウンテン支援のジュースパック製品を販売したほか、「バナナケーキ」とフィリピン風おかゆ「アロスカルド」も販売。

さらに、LOOBのメンバーさんがモデルになって「ジュースバッグショー」も行いました。日本の皆さんにこの商品の実用性と現地の裁縫プロジェクトの意義を最大限にアピール！おかげでたくさんの方に興味もってもらえ、売り上げも上々でした。

このイベントにはLOOB JAPAN東京だけでなく、大阪からもレンタカーで10数名が参加。さらに、今年夏にワークキャンプから帰ってきたばかりの新メンバーも集合して、夜はユースホテルで交流会と感想文集作りのミーティングを行いました。

LOOBのメンバーが力を合わせて成し遂げた今回のイベント。また来年も東京や大阪で出展していきます。



夏のワークキャンプ報告

★ダイジェスト★

第27回ギマラス島キャンプ(08年8月25日～9月2日)



・マングローブ植林

ギマラス島キャンプは日本人参加者20名、フィリピン人参加者10名で、なんと目標を大きく上回る2万本を植林しました。泥地でウニも多く非常に困難でしたが、その分思い出深いワークとなりました。



・Kids Camp

3つの地域から30名の子供を招待して第2回Kids Campを実施。昼間は暑すぎるくらい天気でしたが、準備したゲームなどもうまく進みました。青い海と空、夕方からの激しいスコール、そして何よりも子ども達の眩しい笑顔はあの場所にいた全員の人に刻まれたと思います。

第28回パナイ島キャンプ(08年9月2日～9月13日)



・児童養護施設訪問

パナイ島キャンプでは、カトリック修道会の運営する児童養護施設を訪問。キャンパーの用意したゲームをしたり、将来の夢についてお絵かきで交流をしました。健康でいることや家族の大切さについて、私たちの回りには幸せがいっぱい散らばっていること学びました。



・水道敷設ワーク

パナイ島キャンプでは、ホームステイを行うナムコン村の4箇所にも共同の上水道を設置しました。土を掘って水道管を埋めていくのは単純作業なのですが、木の根やアリとの戦いもありました。この上水道によって、水汲みの家事が軽減され、村人が安全な水を飲むことができます。

♪他団体とのコラボ♪



山口県周南JCさん
「南の島に愛が降る！」
(08年7月10日～13日、参加者36人)
ホームステイや学校のペンキ塗り



早稲田大学ESTさん
ランブナオ小学校建設
(08年8月1日～15日、参加者22人)
小学校の教室1棟建設

後半期のチャリティフリマ実績！

6～12月にLOOBメンバーが全国各地で実施しましたよ★ フィリピンの子ども達の教育を応援する基金集め(Fund Raising)。さて、今年後半の売り上げは？

現地ぬいぐるみフリマ 9月 3,090ペソ
現地ぬいぐるみフリマ 10月 8,158ペソ
北海道フリマ 7月5日 12,000円
北海道フリマ 11月9日 25,000円
東京フリマ 7月19日 5,350円
東京フリマ 10月18日 3,700円
名古屋フリマ 6月1日 10,051円
広島フリマ 6月22日 6,140円
大阪フリマ 11月8日 5,730円



08年の最終集計はまだですが、約10万円を来年度の教育サポートプログラムに宛てることのできる見込みです！

2009年前半の予定

第30回記念 エコ・キャンプ(09年2月17日～3月7日)
～～過去最長、18泊19日のワークキャンプ実施～～

実は、過去にも3週間のキャンプは数回募集したことがあるのですが、運悪く人が集まらず、短縮して実施したのです。LOOBの夢の長期キャンプは、次回で通算30回目を迎えるワークキャンプで実現させます！

今回のキャンプは、「エコ」に焦点を当て、地球の未来についてフィリピンの子供たちと一緒に考えていこうという壮大なテーマを背負ったプログラムです。といっても通常のワークキャンプと同じでホームステイ、スモーカーマウンテン訪問、コミュニティ貢献ワーク(マングローブ植林)、フレンドシップナイトなどももちろん行います。

30回記念として、特にリピーターとロコミによる参加をお待ちしておりますので、参加費は15万円のところ、リピーターおよび紹介された方は3万円引きです。

第31回ギマラス島ワークキャンプ(09年3月19日～3月29日)
～～子供と自然と遊ぶ！ Kids Camp～～

Kids Campは次で第3回目になります。3地域の貧困家庭の子ども達を招待して、無人島でキャンプをしながら絆を深めるほかの団体にはないワークキャンプです。井戸を修復してトイレ衛生を改善するコミュニティ貢献ワークもありますよ。

詳しくはLOOBのホームページをご覧ください。

<http://www.loobinc.com/index.html>

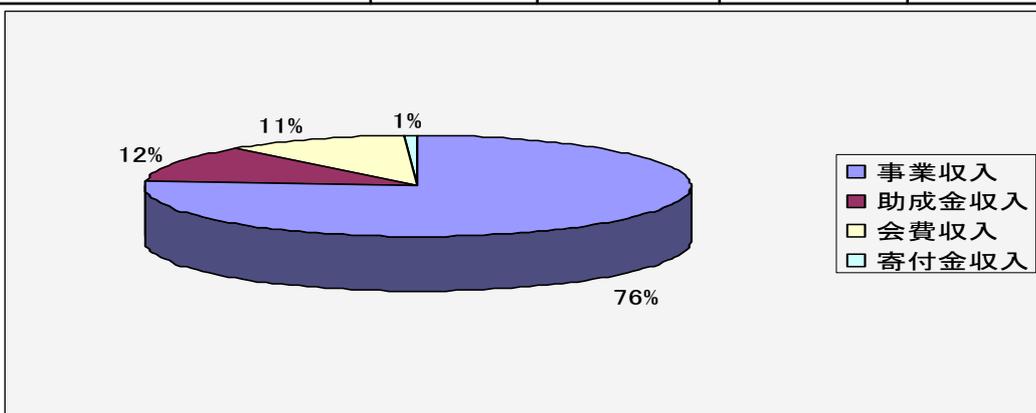


08年度の会計報告

(集計途中のため本紙面では収入の欄のみ仮報告いたします。JAPANの会計を含めた正式報告は09年3月までに会員専用のホームページに掲載する予定です)

今年是他団体とのコラボや助成金の申請で対外的にもLOOBの社会的認知が高まった年でした。助成金などで収入が大幅に拡大しましたが、今後もやはり、活動の柱であるワークキャンプなどで運営を自活していく方針です。規模にとらわれず、多くの人に安定的に支えてもらえるような、魅力のある団体にしていきたいと思っています。LOOB JAPANの皆さん、会員の皆さん、09年度もどうぞ宜しくお願いします！！

科目	金額			
	収入	内訳	決算額	備考
I 収支の部				
1.会計収入	100,000			(10.9%)
正会員(19人)				
現地プログラム賛助会員(136人)	450,000			
特定事業会員(49人)	730,500			
--教育サポート会員(35人)		(564,000)		
--医療サポート会員(4人)		(66,500)		
--カラフナン会員(10人)		(100,000)		
			1,280,500	
2.事業収入				(76.6%)
国際交流・青少年育成事業	7,528,000			
語学交流事業	1,449,100			
			8,977,100	
3. 寄付金収入				(0.84%)
チャリティプリマ寄付	99,000			
フェアトレード寄付				
			99,000	
4. 助成金				(11.7%)
今井国際協力基金	690,000			
大竹財団	180,000			
JICA基金	500,000			
			1,370,000	
当期収入合計			11,726,600	



編集後記:

国民の8割がカトリック教徒のフィリピンでは、11月から色とりどりのデコレーションやイルミネーションが並びとても綺麗です。LOOBでも12月は計3つのクリスマスイベントを実施しました。今回のニュースレターは、現地を訪問したLOOB JAPANのボランティアスタッフCHIKAちゃん。それから現地ボランティアのKAZUちゃん&YUHEI君による記事を書きましたがいかがでしたか？これからも現地の様子を伝えていきますので、どうぞお楽しみに！ご感想・ご要望はこちらまで。LOOB事務局: info@loobinc.com

(小林 08年12月30日)